

れる所、の意。⑧「博」も「覧」も、丁寧にしっかり書きたい字だ。「博」の13画目の「丶」を付け忘れたり、「覧」の下の部分を「貝」にしないよう注意したい。

問二 楷書で書いた場合の総画数は、アが12画、イが11画、ウが13画、エが10画である。

問三 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は現代仮名遣いで「ワ・イ・ウ・エ・オ」となる。また、「ゐ・ゑ・を」は「イ・エ・オ」となる。

問四 文節で区切ると、「大きな・川が・緩やかに・蛇行しながら・流れる。」となる。

問五 副詞の呼応を考える。文末に「——だろう」という推量の意を示すのだから、副詞は「おそらく」が適切だ。「おそらく」は疑惑・心配・ためらいの気持ちをあらわす語で、不確定事項を示す。

第五問 (漢文一大意・要旨、文脈把握、語句の意味、表現技巧・形式)

【現代語訳】 学問は順序に従って日々精進することを大切にしている。天下の極遠は、実に人跡が及ばないところがある。しかし、日々努力して諦めなければ、すなわち到達しないところはないのである。学問の源流は遠い。もし日常の身の回りにあることから学ぶことを、毎日行って止めず、長い間やっていったならば、上達するはずである。

問一 「学」と「日に進む」ことの関係性を考えれば、「学」にとっては「日に進む」ことが必須ともいえるほど重要なことだと解釈できる。

問二 「至」→「不」→「所」→「無」→「也」の順で読むので「至」から一字ずつ戻って読むことになる。従って「不」「所」「無」にレ点を用いて、一字返って読むようにすればよい。

問三 訓読する際に読まない字を置き字という。この文章には「而」も用いられている。

問四 波線部にある「日に進みて息まず、久しければ」という部分をふまえるのだ。毎日やる・休まない・長く続ける、という三つのポイントを含めて指定字数でまとめる。